

## 令和2年度天皇誕生日祝賀牛尾駐ポルトガル日本国大使ご挨拶

令和3年2月

天皇陛下の61歳の誕生日祝賀に際し、ご挨拶申し上げます。

昨年の令和元年度最初の祝賀レセプションは公邸で皆様をお迎えしましたが、本年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、残念ながら、直接お目にかかることが適いません。

まず初めに本パンデミックにより犠牲となった世界各国の方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、感染された方々やそのご家族、不安のなかにおられる方々に対して、心からお見舞いを申しあげます。また、感染拡大の防止のために尽力されているポルトガル政府及び日々最前線で治療に当たる医師や看護師など医療従事者の皆様に改めて深い敬意と感謝の意を表します。

昨年、日本とポルトガルは修好160周年という節目の年を迎えました。パンデミックの影響により予定していた様々なイベントを延期せざるを得ませんでした。そのような中でも両国関係は力強く前進いたしました。

特に昨年9月に茂木大臣が日本の外務大臣として18年振りにポルトガルを訪問したことは両国関係にとり重要な軌跡です。茂木大臣によるレベロ・デ・ソウザ大統領への表敬及びサントス・シルヴァ外務大臣との会談では、二国間関係及び投資を中心とした経済関係を一層強化していくとの考えで一致しました。周年の幕開けとして、昨年1月に衛藤征士郎日本ポルトガル友好議連会長一行がポルトガルを訪問したことで議員レベルでの友好関係は深化しました。

経済面では、一昨年2月に日EU・EPAが発効したことにより、日本の消費者にとってポルトガル産品はより身近なものになりました。今やポルトガルへの進出企業数も約100社となり、両国経済は着実に強化されています。新型コロナウイルス感染拡大前の昨年2月には更なる経済関係促進に向け、ブリリヤンテ・ディアス外務副大臣が訪日し、日本企業との面談を中心に、今後の二国間経済関係強化に向けた議論が行われました。その後、対面での接触が難しくなる中、昨年11月にはポルトガル・日本商工会議所が「Why Portugal」と題し、日本とポルトガルの経済関係者を繋ぐオンラインセミナーを実施、そして昨年10月に実施された「水素閣僚会議特別イベント」には、マツ・フェルナンデス環境・気候変動大臣がビデオメッセージという形で出席し、これまでにない新しい形での繋がりが実現しました。

160年前の8月に修好通商条約が署名されたことを記念して、昨年同月に当時の安倍総理からコスタ首相及びポルトガル国民に対して祝賀書簡が発出されたことで周年のモメンタムは更に高まりました。また、パンデミックの影響で、日ポルトガル修好160周年認定事業として予定されてい

た多くの対面式によるイベントは開催できませんでしたが、1月には、シントラ・アート・ミュージアム、国際交流基金等と共催し日本世界遺産写真展、その後も、感染症予防を強化する中でのオリエント美術館での日本映画祭、その他各種ワークショップを対面で実施することができました。また、今般のコロナ禍で更に重要性を増した SNS 上での日本文化関連情報の発信に例年以上に力を注ぎ、一昨年立ち上げた当館 FB は1200人以上のフォロワーを獲得しました。今後は、感染症の状況を踏まえながら、安全な対面式の文化事業実施を模索するとともに、オンライン事業を通じた積極的な日本発信を続ける所存でありますところ、引き続き、関係者の皆さまと協力して各種事業を開催していきたいと考えます。

なお、当館天皇誕生日祝賀特設ホームページでは写真と共に昨年の活動を紹介しておりますので合わせてご覧ください。

2021年前半、ポルトガルはEU議長国を務められます。ポルトガルとの協力は、日・EU協力の観点からも非常に重要です。茂木大臣がポルトガルを訪問した際、サントス・シルヴァ外務大臣及びレベロ・デ・ソウザ大統領とも認識の一致を見たところではありますが、両国は、海洋貿易国家という共通点を有し、共に自由で開かれた海洋秩序の維持を重要視し、自由、民主主義、人権及び法の支配といった基本的価値を共有する重要なパートナーであるということです。未知のウイルスの感染拡大により、様々な困難と試練に直面している今だからこそ、価値を共有する諸国の結束が求められています。また、日本が、そしてEU諸国がポルトガルのリーダーシップに期待しています。

私は、この類の無い時節に駐ポルトガル日本大使として任務にあたる決意を新たにし、これまで以上に両国関係強化に向けて尽力する所存です。

本挨拶をご覧いただきました皆様に感謝申し上げます。今年が、皆さんにとって、希望を持って歩んでいくことのできる年になるよう心から願います。また、再び皆さんと直接お会いできる日を心待ちにしております。

最後にもう一度、天皇陛下の61歳の誕生日と、ポルトガルと日本の関係が一層深化することを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。